

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念の中に「地域や自然に触れ合いながら、ご家族や町の人々との行き来を大切にいたします」との項目を設けている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ホーム内に啓示することを通し、職員に周知徹底している。又 新入職員に対し、オリエンテーションを行い理解を促している。		
3 家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	基本理念等をホーム内に啓示している。又パンフレットや重要事項説明書等にも記載し、入居者およびご家族等にも文書を見ながら説明し、理解を得ている。地域の町内会に入会し、役員の方にもパンフレットや運営規定や重要事項説明書の書類を配布、説明を行い理解を得るよう努力している。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	周辺の住宅と違和感のないような外観となっていて、花壇等を整備し、和やかな雰囲気づくりに努めている。又 近所を散歩したりして、顔なじみになるようにしたり、地域のご家庭の花壇を見学したりしながら会話をしたりしている。ホームの前庭にて往来する方に挨拶を行い、ペットをお連れの方等は、ペットを見せにきたりしていただいている。		
5 地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の町内会に入会し行事の案内をいただいたり、敬老会のお祝いをいただいたりしている。地域の行事にも参加をして一緒に楽しんだりしている。又 町内の会館で「憩いの家」として、趣味の会が毎日のように行われているので、参加していこうと職員間で検討している。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域にある学校の学生方との交流を行い、職場体験やボランティア・実習生等を受け入れ、今年度はさらに教育大の吹奏楽部による「おおぞらコンサート」を開催し、地域の方にも案内をして、一緒に楽しんでいただきました。地域の身体の不自由な方や、高齢の方等なかなかコンサート等に行けない為、またの機会を楽しみにされている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>高齢者虐待防止関連法についての講習会等に参加して行きたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホーム内に「利用者からの苦情を処理する為に講ずる措置の概要」を掲示している。さらに毎週契約看護師の方が訪問され、その時にひとりずつお話されご本人の状態を聞いて頂くような機会を設けている。又職員においても入居者の方と2人きりで会話のできるような時間を設け本音が話せるよう努力している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	普段の様子や健康状態については、面会に来所された時に職員より報告を行っている。金銭管理については、定期的に金銭出納帳のコピーと領収書をお渡ししている。職員の異動については、ホーム内に職員の写真を掲示し分かりやすいよう、工夫をしている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホーム内に「利用者からの苦情を処理する為に講ずる措置の概要」を掲示している。入居される時に説明をし、利用者については、入居される方のみではなく、ご家族についても含まれることを説明している。職員と普段から気軽に話せるように、面会に来所された時等は積極的に職員から話しかけるよう努力している。ご家族から意見等があった場合、朝の引継ぎや職員会議等で話し合い、ご家族の意向に沿うようにしている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回全職員が集まり職員会議を行っている。その時に意見や提案を発言できるようになっている。又、日常的にも聞いていて、必要な事項については、改善するように努めている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	急な勤務の変化や交代に対応できるよう、職員の人数を、人員基準以上に配置して、入居者及びご家族の状況の変化に対応している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員については、有給休暇を希望に添ってとれるようになっていたり、勤務表作成にあたって、休日等について希望を取り入れる等、なるべく離職するような状態にならないよう努めている。新入職員については、1ヶ月程度は管理者と一緒に勤務に就くように配慮し、見慣れない職員のみで介助をするような場面がないようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族の訴えが必ずしもご本人の思いや気持ちと同一ではないことがあるので、かかりつけ医や入所前に利用していたサービスからの情報等を可能な限り集めアセスメントを行い、必要としている支援を見極める努力をしている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	可能な場合はご本人も一緒に見学していただいたり、食事を一緒に摂ったりして、雰囲気馴染むようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	若い頃調理の仕事をしていた方から、調理について教えていただいたり、お裁縫の仕事をしていた方には、雑巾縫いや繕い物をしたりしていただいている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が来所された時等に、率直に困っている事等をお話し、入所前に対応されていた方法を聴いたり、一緒に解決方法を考えたりしてあげる。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族が来所された際に、職員が積極的に近況報告を行い、認知症による特徴的な行動があった場合は、認知症についての説明を行い、ご家族の誤解をまねかまいよう、努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	ドライブレクリエーション等で、ご本人のご自宅へ行ったり、子供さんのお宅へ行ったり、また、以前の職場の近くへ行ったりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	仲の良い入居者同士で食事ができるような席の配置にしたりしている。また、車椅子の入居者には歩行のできる入居者が介助したり、行事等の写真を貼ったアルバムを一緒に見たりして、入居者同士が触れ合う機会が多くなるよう気を配っている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所された方のご家族の依頼により、希望する事業者を紹介したり、郵便物が届いた場合など届けがてら、様子を伺ってお話を聞いたりしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所時に生活歴等必要な情報をお聞きし活用している。また、入居者の希望や意向を職員が直接聞いたり、感じ取ったとき、他の職員にも伝え、日々の介助に反映するよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時にご本人及びご家族より、生活歴等お聞きしている。また、普段の会話の中から聞いた事項については、他の職員にも分かるように記録用紙を用意している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	起床・就寝時間、食事を摂った時間や量、1日の過ごし方等を記録に残し、申し送り時にも検討し、総合的に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎月の職員会議において、処遇会議も行い、職員全員で課題について話し合いをしている。介護計画については、介護支援専門員がご家族や担当者と話し合いそれぞれの意見を反映するような介護計画を作成するよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	現在では、介護計画を変更するような急激な変化が生じるような事例はないが、日常の小さな変化においては、ご家族とも相談しながら、介助方法を変えたりして対応している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者の個別の日々の記録があり、活用している。職員会議においても個別に問題点や介助方法等について話し合い職員全員が情報を共有し同じ視点で実践できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ホームの裏庭に、ウイスキー樽プランターに野菜等を植えて車椅子の方でも菜園の作業が出来るよう工夫している。また 運営推進会議等2階にある他の事業所の事務所を活用して行っている。地域の学生方のボランティアの力を借りたりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の民生委員の会議においてグループホームの説明を行ったりして、普段より交流をして情報を提供している。非難訓練においては、消防署への通知訓練を行ったりしている。地域の学校との交流を行い、ボランティアを受け入れたり、1日職場体験の受け入れ、実習生の受け入れをしている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	福祉用具等で事業者を紹介し、サービスを利用したりしている。地域の他のケアマネジャーを必要とするような事例は現在のところないが、今後必要性を認めた場合は支援していきたい。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在では、地域包括センターと協働する必要性の事例がない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入所前からのかかりつけの医療機関に、ホームの看護職員による定期受診のサービスを行っている。その都度担当医師と相談したり、急変があった場合等電話で相談したりしている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	入所者の方々それぞれに専門医、又は認知症に詳しい医師に定期的に受診を受けている為、ホームの看護職員が受診の対応を行っている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所の管理者が准看護師の資格を持っている。また、医療機関受診の対応の為の非常勤勤務の職員も准看護師の資格を持っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入居者が入院した場合においても、病院からの連絡先はホームとしており、情報交換している。入院中においても、職員が医療機関に向くようにしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合や終末期のあり方について、ご本人又はご家族の意向を確認している。又その意向に沿って支援できるよう、かかりつけ医等と密接な連携を取っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけ医や訪問看護師と密接に連携し、通院困難になった場合に備えて往診可能な医療機関を確保している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	退所後の施設に介護・看護添書をお渡ししたり、ご家族からの希望があった場合、担当のケアマネージャーにご本人の情報をお話したりしている。		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	入居者一人ひとりの特徴に合った会話や言葉がけを心がけている。プライバシーや自尊心に配慮して排便・排尿等の言葉がけや、傷つけない後始末に心がけている。人としての尊厳を傷つけるような言葉は絶対に使用しないよう周知徹底している。記録等の個人情報もなるべく人目のつかない所に保管している。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	入居者一人ひとりの状態に合わせた会話や言葉がけを心がけ、コミュニケーション能力が向上するように努めている。また食事の献立を雑誌等を見ながら職員と一緒に考え嗜好品を取り入れたり、余暇の過ごし方を選択したりしている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床や就寝・食事等その方の生活のリズムに合わせて、提供するよう努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理容院や美容院はご本人の希望があれば、望むお店にお連れする対応をしている。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備において、野菜の皮むき・お豆の筋とり・もやしのひげとり等ご本人の好みや力に応じていただいている。また、食卓を拭いたり・おしぼりたたみをしたり役割としていただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒やタバコを望まれている方はいないが、飲み物やおやつ等は出来るだけ本人が好む物を用意し、希望される時に楽しんでいただいている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	入居者それぞれの排泄パターンをチェック表を用いて把握し、それぞれの時間に応じてなるべくトイレにて排泄出来る様、こまめに誘導し介助を行っている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日血圧・体温・脈拍・排便等の体調の調査を行い、又ご本人より体調の様子を聞いたりして入浴のタイミングを考慮している。入浴は、脱衣から入浴・着衣まで一人ひとり介助を行い、その入居者の方のペースに合わせて行い、入浴後は気持ちが良いと満足していただいている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	談話室のソファに横になったり、夜間小上がりに布団を敷いて休まれたりして、入居者のその時の状態や状況によって休息がとれるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ご本人の出来ること出来ないことを見極めながら、若い頃の職業や趣味を活かした役割や楽しみごとを取り入れている。例えば 菜園や花壇の作業、食事の準備の野菜の皮むき、おしぼりたたみ等		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理の可能な方にはご本人に行っていただき、金融機関への送迎介助も行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	お天気の良い日は菜園や花壇の水遣りをする為戸外に出たり、近所を散歩したりしている。又 施設の買い物時職員と一緒に買い物に出かけるようにしている。戸外の歩行を望まない方にはドライブレクリエーションを行ったりしている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族の職場にお連れしたり、戦没者慰霊祭に参加する等、ご本人の希望される場所へ出かける機会をつくっている。また、市内で行われている催し物等にも積極的に出かけ見学したりしている。ご家族が病気等でホームになかなか来られない時等、ご本人をご自宅へお連れしたりしている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話は子機を利用し、居室等で利用できるようにしている。又手紙についても職員が代筆し手紙のやり取りができるように支援している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族や知人・友人等が来訪した際は、職員が積極的に入居者の近況をお話し、職員と来訪者が入居者中心の話題作りの提供ができるよう努めている。又 居室や談話室で入居者と来訪者がゆっくり過ごせるようお茶を出したりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	他入居者に悪影響を与えるような場面において、家族の同意の元、行っている。ただ介助の方法や担当医との連携により、回数や時間帯が減少している。毎月身体拘束委員会を開催し適切であるかどうか検討を行っている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけていない。出入りの多い場所には、センサーを設置し、心理的圧迫を与えていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中はホールにて過ごされることが多い為、様子を把握し見守りし易い。夜間については、定時に巡回し、睡眠リズム等を記録し安全に過ごす事ができるよう配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ご本人の身体機能や物品への理解度を考慮しながら、一律に取り上げる事はしていない。危険な物は安全な物に変えていただくよう、ご家族に協力していただいている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員会議等で一人ひとりの状態について話し合い、全職員が同じ認識を持って取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	職員会議等において看護職員の指導の元で行っている。		全ての職員が完全に行えるよう、今後も定期的に行っていききたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回避難訓練を行っている。町内会の会議等で地域の人々の協力をお願いしている。		今後は、地域の方々と一緒に避難訓練をできるようにしていきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	布団からの立ち上がりが困難になった方にはベットへの変更へ変更をする際、ご家族に起こりえるリスクを説明し、ベットの横にマットを敷くなどの対応策と一緒に検討したりしている。また、インスリンの対応時間の変更に際しても事前にご家族に説明し、ご本人が安心して行えるように支援している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックの分析等や、ご家族からの面会時のご本人の見た目等、多方面からの情報収集により、変化に気づくようにしている。速やかに医療機関と連携し対応している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護職員が服薬管理を行っており、薬の目的や副作用・用法用量等についても、会議等で説明している。また、変更等があった場合においても、引継ぎ等で、周知徹底するよう努めている。薬の説明書等を、職員がいつでも見て確認ができるようになっている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	看護職員の指導の下、よく理解している。予防の為、食事量・水分量の確認記録を行っている。また、排泄の確認と記録を行っている。食材料にはなるべく食物繊維の含まれているものを使用し、なかなか水分の摂ることの出来ない入居者の方には、好きな物を個別に摂っていただくようにしている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後速やかに口腔ケアを行い、口腔内の状態によっては歯科医師の指導の下、ハブラシを適切な物を使用している。義歯については、曜日を決めて入れ歯洗浄剤等で除菌を行っている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量については、確認し記録を行っている。食事量が落ちてきている場合等は食事形態を変えたり、水分についても、ご本人の好みの物を個別に摂っていただくようにしている。又、飲み込みが困難になってきている方には、寒天ゼリーの番茶で摂っていただいている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	看護職員の指導のもと、職員会議等で行っているが、疥癬やMRSA等についてはまだ詳しく行っていないので、今後説明会等行っていきたい。		疥癬やMRSA等について詳しい内容で行ってきたい。
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理担当者の指導の下、台所・調理器具等の衛生管理について周知徹底をしている。食材料については、職員が販売店に直接出向き、食材料の鮮度等を確認しながら購入している。購入後は速やかに、冷蔵庫や冷凍庫に入れている。生ものや半加工品は、使用分のみ購入するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>		共用空間の中に、一人になれるような場所ができるよう、考慮したい。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者の各居室にはそれぞれのネームプレートを掛けてあり、トイレの表示も大きくしてわかりやすいような環境作りに努めている。又 職員全員が入居者の状態を常に把握し、解決できない問題については、その都度、会議や朝の引継ぎ時に話し合っている。		
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホームの前庭には、草花を植え水遣りをしたり、日光浴をしたり・車寄せの下で日差しが強い時期においても外気浴を楽しんだりしている。又 それぞれの行事においても利用している。裏庭では、樽での菜園を作っており、車椅子の方でも、苗植えや収穫ができ楽しみにしている。		

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

毎日を元気に過ごす為には、バランスの良い食事がきちんと摂れることであると職員全員が考えている。その為には、入居者それぞれの好みを考慮したり、食事形態をその方々に合わせたものにして、安全に食事ができるように、毎日取り組んでいる。さらに、入居者は食事に関する事で生き生きと活動されるので、菜園を作り車椅子の方でも作業ができるように工夫をしている。又 地域の学生との交流を大切にしています。小学生が「ふれあい活動」として訪問したり、高校生のボランティア・職場体験・実習生の受け入れを行ったり、今年初めてですが教育大生によるコンサートをホームの前庭で開催し、地域の方々と一緒に楽しんだりしている。